

『ライター博物館』が所蔵する

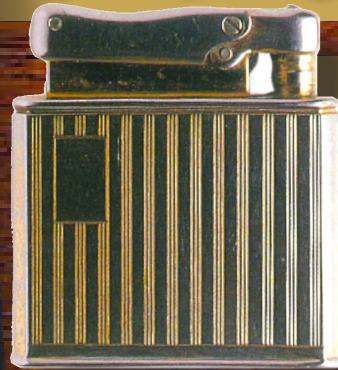
貴重で膨大な

アンティークライター

コレクションが

時を越えて

書籍で蘇る!



穴水 佐起子

アナミズ サキコ

1941-2023

ユーロピアンコネクション・前代表。
ライター博物館・館長。

東京都生まれ。聖心女子大学卒業後
イギリスに留学、「野村証券ロンドン
支店」に勤務。帰国後、ヨーロッパ
と日本の文化の違いを埋めるべく
日常生活に使える西洋アンティーク
を紹介。西洋のアンティーク家具や
美術品なども幅広く扱う。



AURORA



1958年、日本：日本のライターメーカーのオーロラ社が輸出用に製造していたもの。内蔵バッテリーによりフラッシュライトが点灯する。火をつければそれだけでも十分明かりが得られるのに、どうしてライターにわざわざフラッシュライトをつけたのか理解に苦しむところだ。



ライター上部の着火レバーを押すと、フリントホイールが運動して着火する。ボディ正面には、このライターの最大の特徴であるフラッシュライトが取り付けられている。

AURORA



バッテリー用の単5電池2本をコンパクトに収納されている。しかしながら、フラッシュライトとしての効果はあまり期待できない。

AUTOMATIC

UNKNOWN



1960年代製造、日本：火をつけると同時にオルゴールが鳴りはじめるライター。ポケットライターのサイズながらもこんな仕掛けがついている。

1960年代製造、ドイツ：ボディには革が巻きつけてあるので、手に良くなじむポケットライター。着火するためのプッシュピース先端に丸みが帯びている。



K.W.

COLIBRI



1950年代製造、イギリス：当時のイギリスでポピュラーだったタイプで、真鍮に金メッキ仕上げが施されたもの。

1940年代製造、フランス：ボディ表面にアール・デコ調の模様がモールドされているポケットライター。素材にはクロームを使用しているので、重量感がある。



NOVA

TABLE LIGHTER

UNKNOWN



1970年代製造、日本：1933年のロールス・ロイスを形取ったプラスチック製のテーブルライター。屋根の部分を開けるとシガレットが収納でき、車体の後部にはライターが取り付けられている。70ミリ。

UNKNOWN

1950年代製造、ドイツ：HILDESHEM社のプロモーション用に製造されたアルミ製のもの。トレーラーが灰皿、シープがシガレットケース、ボンネットにはライターが取り付けられている。77ミリ。



UNKNOWN

1970年代製造、日本：錆物の車の中にライターが埋め込んである輸出用ライター。ひとむかし前の高級車のような感じを受ける。72ミリ。



UNKNOWN

1961年、日本：ボンネット部分にライターが埋め込んである。丸みを帯びた車のフォルムがユーモラスで、ミニカーのようである。やはりこのライターも海外への輸出用である。30ミリ。



UNKNOWN

1970年代製造、日本：錆物の汽車の中にライターが埋め込んである輸出用ライター。72ミリ。



TABLE LIGHTER

1937年製造、イギリス：ストライカーの櫂る部分が本体に取り付けられている珍しいテーブルライター。フロントホイール式、高さ70ミリのオイル仕様のライターである。

PARKER



1960年代製造、日本：輸出用に製作されていたモデル。ライター部分は取り出せる用になっている。フロントホイール式、高さ60ミリのオイル仕様のテーブルライターである。

UNKNOWN



UNKNOWN

1935年製造、フランス：表面に施された凝った刻印が印象的なテーブルライター。高さ100ミリのライターはフロントホイール式で着火し、燃料にはオイルが使用されている。

1960年代製造、日本：金属製の帆の下にライターがセットされているモデル。ディスプレイ用に製作された美しいテーブルライターだ。フロントホイール式、高さ215ミリだ。

UNKNOWN



第七回 日本最大級の骨董フェア 全国からアンティークディーラー大集合!!

有明骨董ワールド

東京ビッグサイト 南3ホール

2025

ARIAKE ANTIQUE WORLD

2月

22(土).23(日).24(月祝)

10:00-17:00

特別企画展示

◆ライター博物館◆

世にも珍しい、

アンティークライターが勢揃い!!

入場料¥1000
(前売り¥800)

2025. 2/22・23・24
第七回『有明骨董ワールド』
特別企画

穴水コレクション
特別展示
『ライター博物館』

が開催されます!